

【別紙様式】

令和5年度教育指導の重点及び学校経営計画（全体）

学校番号	学 校 名
4	岐山高等学校

学校教育目標	<p>教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人物を育成するため、次の教育目標を定めてその実践を期する。 (1)「躍進岐山」の意気と誇りをもて、(2) 全力を尽くして学業に励め、(3) 礼儀正しく思いやりのある人となれ、(4) 強健な心身をつくれ 上記、教育目標の達成を目指すとともに、理数科設置校としての本校に課せられた社会的使命や、生徒全員が進学を志していることに鑑み、その自己実現を図るよう、創造性に富んだ明るく活力ある学校づくりに努める。</p>		
スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自覚と責任をもち、リーダーとして地域や社会に貢献できる生徒 強い心身をもち、困難をも克服できる生徒 科学的な考え方と手法を身に付け、主体的・論理的に課題解決ができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な活動を通して、物事を考察、判断、表現する力の育成 実践的な「知識・技能」が習得できるカリキュラムの編成と科学的視点と言語活動を重視した授業の実践 諸活動を通して自己理解をし、自己実現ができる支援 	<ul style="list-style-type: none"> 学業に主体的に取り組む意欲のある生徒 主体的に自己を見つめることができる生徒 校内外の活動に取り組む意欲のある生徒
教育指導の重点 (今年度の具体的な重点目標)	重点目標の達成に必要な主な具体的取組、方策		達成度の判断、判定基準あるいは評価指標
1 「知識の獲得」と「知恵への昇華」による学力の伸長を図ります。	<ol style="list-style-type: none"> 「やり切る」指導を徹底することでより良い学習習慣の確立と基礎・基本の定着による「知識の獲得」を目指します。 学習の到達度に応じた指導を組織的に行い「使えるまで高める」教科指導を通して、応用力・実践力を育成します。 各教科の授業と探究の時間等との連携を図りつつ、科学の視点と言語活動（主体的・対話的な深い学び）を重視した授業を展開し「知恵への昇華」を目指します。 		<ol style="list-style-type: none"> 予習や課題の取組状況により、指導の在り方を評価します。 生徒による授業評価並びに家庭学習時間の調査より評価します。また授業に対するアンケートを行い、5段階評価で4.0以上を目標とします。 各教科の研究授業や公開授業を行い、実践交流を通して互いの授業を評価します。
2 キャリア教育を推進し、自己理解の上、自己実現達成への支援をします。	<ol style="list-style-type: none"> 「人間探究の時間（総合的な探究の時間）」を核とし、計画的に配置した進路研究講座等の一連の取り組みを通じて「探究型教育システム」を推進し、生徒自ら自己と学問や社会との関わりを見つめさせます。 進路志望調査や各学年で実施する基礎学力確認テストにより、生徒の学習状況など実態を把握し、家庭学習の充実や進路決定の支援をします。 各学年で適切な時期に学年集会、講演会、学習会等を実施し、様々な進路情報を提供することで、生徒の進路意識の高揚を図ります。 		<ol style="list-style-type: none"> 取組ごとの生徒アンケートにより評価します。また、生徒が作成した報告書の内容等も参考とし検証します。 回答内容や家庭学習時間、学力到達度の変化や比較により評価します。 生徒の活動の様子で評価します。
3 生徒の基本的な生活態度を育成することを通して、自主的、自律的に判断して行動できる生徒を育成するとともに、支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努め、組織的に対応します。	<ol style="list-style-type: none"> 自ら考え参画できる生徒を育成するために、教育活動全般において、社会の諸問題や自己の在り方について問い掛け、生徒自身に考えさせる機会を増やします。 学校行事の立案や運営について、生徒が中心となることができるよう支援します。 集会指導、遅刻指導、交通安全指導、その他日常的な指導を通して生活規律を整えます。 支援を必要としている生徒に対し、担任、学年会、特別支援教育コーディネーター、教育相談係、養護教諭や関係機関等と連携して組織的に対応します。 		<ol style="list-style-type: none"> 生徒自らが、委員会やホームルーム活動等を計画的に企画・運営できたか、生徒の活動状況で評価します。 生徒自らが、各行事の立案や運営を行えたか、生徒の活動状況で評価します。 生徒自身が生活規律を自発的に正すことができるようになったか、生徒の姿で評価します。 生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止、早期対応がなされたかを生徒のその後の状況等で検証します。
4 家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図ります。	<ol style="list-style-type: none"> 家庭と学校との情報伝達を円滑にするために、各種通信及び学校ホームページやメール配信システムなどを活用して学校の様子や生徒の活動の様子等の情報を発信します。 P T A役員を中心に職員と連携して、P Tフォーラムが有意義なものなるよう企画・運営します。また、保護者懇談会等を通じて家庭と学校との一層の連携を図ります。 		<ol style="list-style-type: none"> 学校からの情報を伝えると共に、生徒の活動の様子を紹介することができたか、アンケート等により評価します。 学校と保護者との意思疎通が図れたか、アンケート等により検証します。